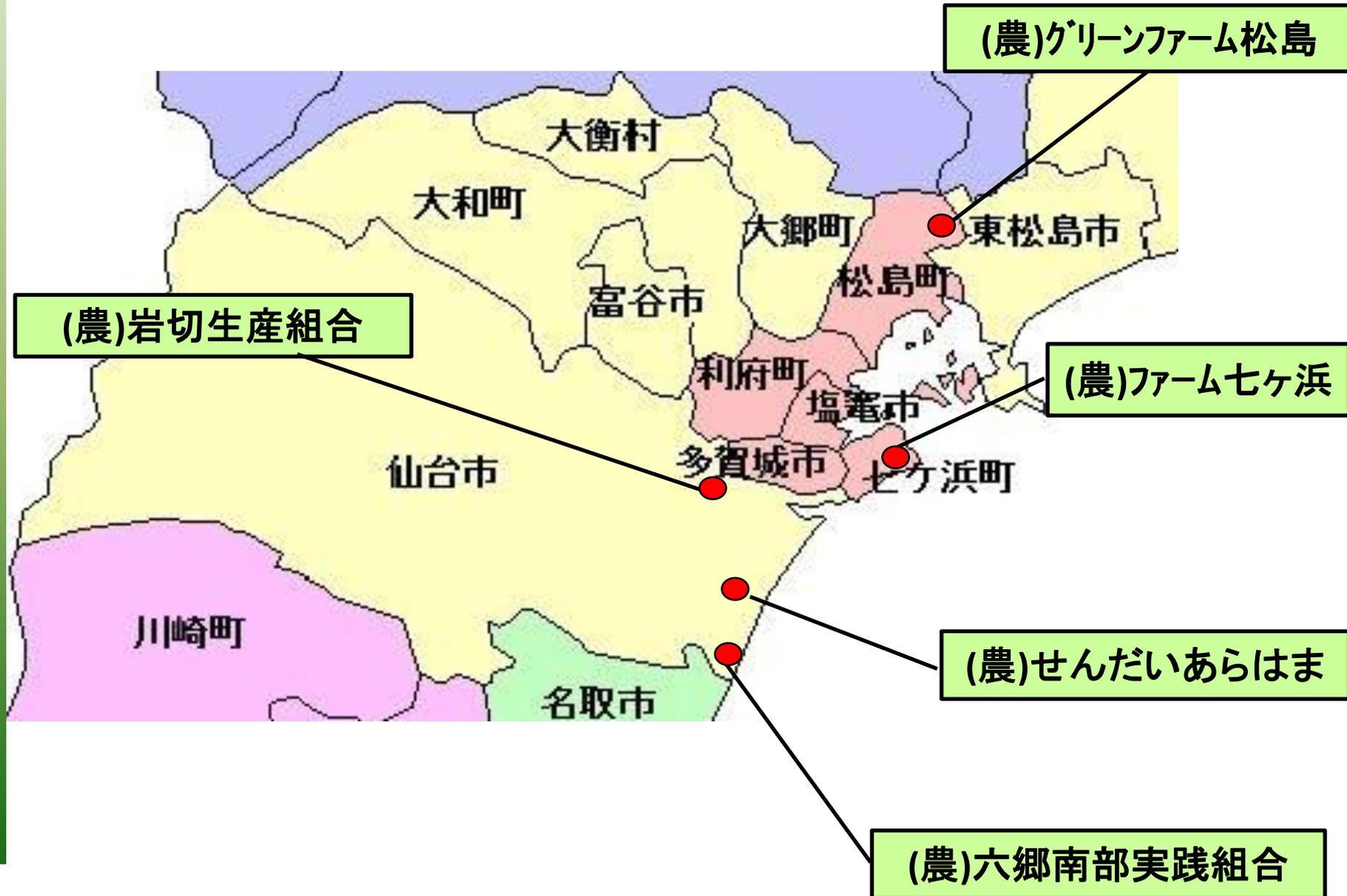


仙台東部における土地利用型農業法人の 経営体質の強化(平成29年～30年度)



【活動対象】 設立4年目の土地利用型農業法人



～土地利用型農業法人のモデル育成～

創設期：法人としての
基盤づくり

成長期：経営計画の
作成・実践

発展期：事業収益の拡大
持続的事業経営
の確立



【課題と目標】

- 経営者（理事）の年齢が高い。経営感覚が個人経営や任意組織のままであるケースが多い。

→ 経営者マインドの醸成

- 経営目標や経営計画が作成・共有化されておらず、法人運営体制が整っていない。

→ 法人運営体制の強化

- 転作大豆や園芸部門に技術的な課題を有しており、収量が安定していない。

→ 経営計画の実践による複合経営の安定化

【目標を達成するための普及活動】

① 経営ビジョン・経営計画の作成・共有化支援

② 組織運営体制強化支援

③ 法人間連携の促進

④ 経営計画に基づく実践活動の支援

集合研修

個別支援

✓ 土地利用型作物生産（大豆）の収益性向上支援

✓ 園芸生産の収益性向上支援

【活動と成果】

集合研修①組織管理研修会



☑経営管理表100の診断

	1	2	3	4	5	6	7
	組織・経営体	土地	人	機械設備	お金	作業・生産方法	地域・自然
経営者に求められること(16) スカへ	44	50	26	7	9	5	0
経営理念・経営方針(4) スカへ	33	50	67	42	0	33	0
経営計画(14) スカへ	52	42	83	67	67	33	33
財務会計マネジメント(14) スカへ	0	0	0	0	0	33	33
生産マネジメント(19) スカへ	20	89	33	11	0	0	0
人材マネジメント(21) スカへ	23	53	67	24	0	0	0
情報マネジメント(14) スカへ	7	33	33	0	0	0	0

- 高い
 - ・土地利用計画
 - ・5S/改善活動
- 低い
 - ・財務状況の把握
 - ・資金計画、経営試算
 - ・予算原価管理、部門別損益管理
 - ・圃場に応じた管理
 - ・人材育成
 - ・報告・連絡・相談、圃場情報

(演習 第1回:H29.11.28,
第2回:H29.12.11)

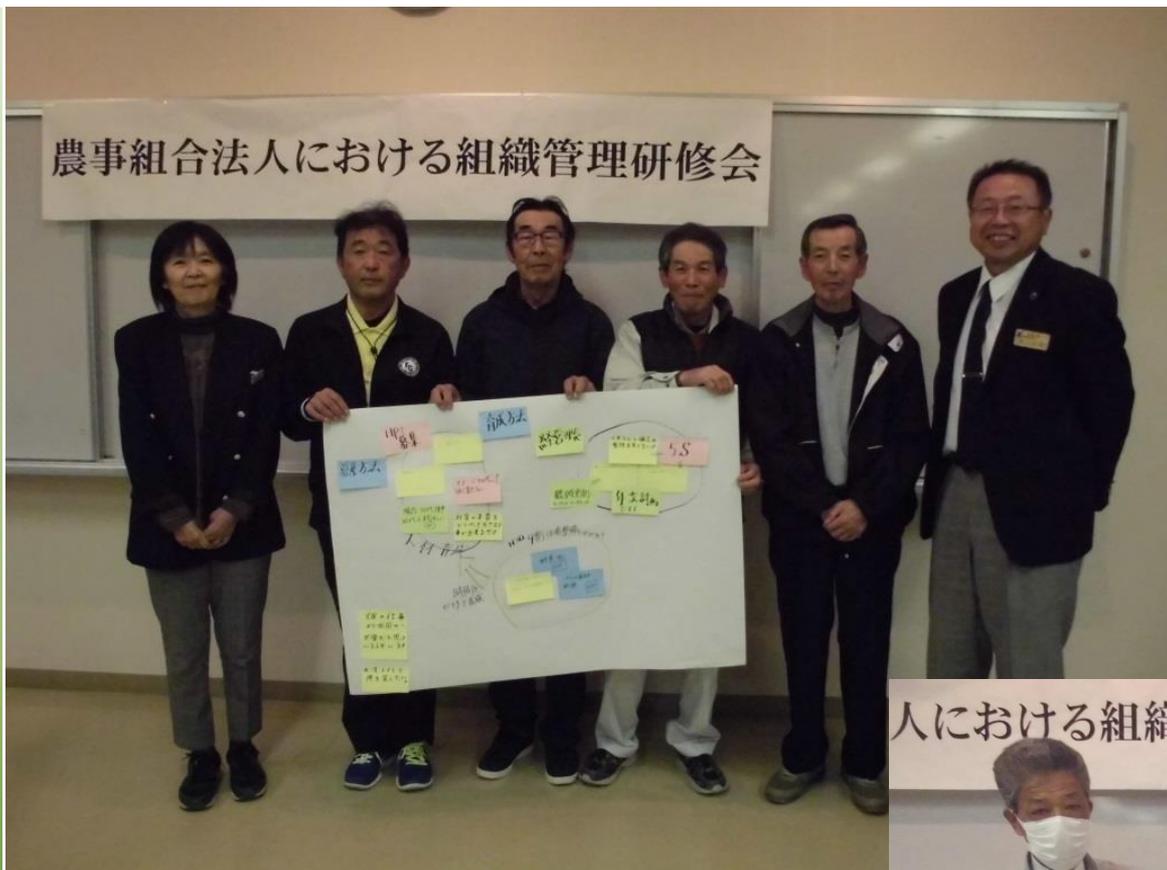


(農)六郷南部実践組合



(農)岩切生産組合





◇法人毎に課題の
明確化・共有化

◇法人間連携の促進

集合研修②GAP研修会



講義「法人におけるGAP研修会」(H30.12.11)

◇GAP認証取得に向けた動き

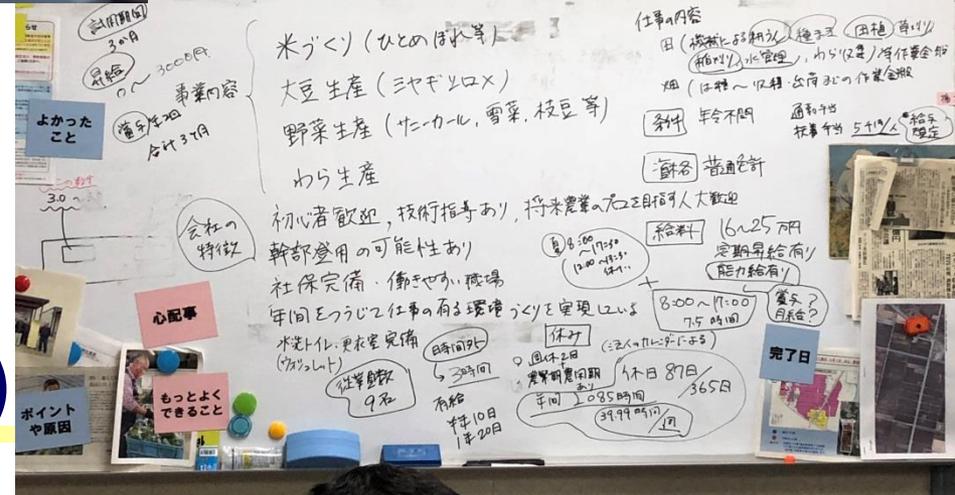
■経営ビジョン・経営計画の作成・共有化支援



[ハンズオン支援(経営計画策定に向けた検討)(六郷南部実践組合)]

[雇用導入に向けた話し合い
(六郷南部実践組合)]

◇雇用の導入
(H30.12～ 2名新規雇用)



■組織運営体制強化支援



[ライスセンター建設委員会・
理事会全体研修会
(グリーンファーム松島)]

[資金繰り計画作成支援
(グリーンファーム松島)]



◇施設導入計画の具体化
(ライスセンター:H31秋稼働予定)

■ 経営計画に基づく実践活動の支援

✓ 土地利用型作物生産(大豆)の収益性向上支援



[法人全理事を対象とした大豆栽培研修会(ファーム七ヶ浜)]

[データに基づいた大豆生産指導(岩切生産組合)]

◇ 生産技術のレベルアップ



✓ 園芸作物生産の収益性向上支援



【生産実績検討支援】

- ・作目毎の生産振り返り、次年度に向けた計画作成支援

[えだまめ生産検討会
(六郷南部実践組合)]

[ミニトマト栽培反省会
(せんだいあらはま)]

◇PDCAサイクルの運用



◎活動の成果と来年度以降の活動

- 経営計画を話し合う中で経営継承について検討され、新規雇用の導入が図られた。
- 施設導入に向けた経営計画作成等を支援したことにより、法人内の合意形成が図られ、施設建設計画が具体化した。
- 複合経営部門の技術支援等により、生産技術のレベルアップとPDCAサイクルの運用が行われるようになった。
- GAP研修により法人内の生産工程管理に対する意識が高まり、GAP認証取得に具体的に取り組む法人が現れている。
- 集合研修を通して法人間で悩みの共有が図られ、法人間連携が促された。

☆平成31年度からは、プロジェクト課題で支援した取り組みの定着に向けたフォローアップ活動を行います。



生産組織での 新規作型の導入による ねぎ作期拡大

活動期間：平成30年度

対象：(農)いさござわ
(ねぎ生産組織)

(プロジェクト課題No. 4)

背景・課題

JAあさひなねぎ部会

「生産拡大推進プロジェクト」進行中



【目標】 販売額 1億円

【札幌市場】

増産及び販売期間の拡大を希望

年度	栽培面積	売上(市場出荷)
平成29年度	14ha (145t)	52,000千円

生産者の高齢化

→ 安定供給に向けて生産組織での作付拡大が必要

★農事組合法人いさござわ

所在地: 大和町鶴巢

平成27年7月に法人化(35名)

経営概要: 水稲23ha, 大豆14ha,
ねぎ45a(曲がりねぎ)

<課題>

- ねぎの作付拡大に取り組もうとしているが、曲がりねぎ栽培(施設やとい)は労力がかかる上、ハウスの面積には限りがある(1棟のみ)。
- 作業に応じた人員配置ができておらず、適切な作業計画の策定が必要。

目 標

目標	活動事項
① 曲がりねぎ(施設やとい)に「露地やとい」や「長ねぎ」等を組み合わせて、作期を拡大することで、出荷量及び収益が向上する。	<u>作期拡大支援</u> <ul style="list-style-type: none">・新規作型の提案・新規作型導入支援 (播種・定植・やとい・出荷調製・施肥管理・病害虫管理指導)
② 適切な作業管理ができるようになる。	<u>作業計画の適正化支援</u> <ul style="list-style-type: none">・作業内容や時間等の確認、検討・作業計画策定支援

数値目標 : ねぎの出荷期間 2ヶ月(H29) → 6ヶ月

活動内容 作期拡大支援①

○新規作型の提案

面積を60aに拡大したい  35a分のねぎはハウスへやとい曲がりねぎにする
残り25a分をどうするか？

作型	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	作型のねらい
①長ねぎ・15a (夏秋どり) 品種「夏扇パワー」	播種		定植											稲刈り前の比較的単価が高い時期をねらった長ねぎ栽培。
②曲がりねぎ・10a (露地やとい) 品種「白矢」	播種		定植						やとい					ハウスではなく露地へやとすることで作業を軽減し、かつ曲がりねぎの作期を拡大する。
③曲がりねぎ・35a (施設やとい) 品種「ホワイトソード」		播種		定植						やとい			収穫	JAあさひなにおける基本の作型
④長ねぎ(春どり) 品種「春扇」 「龍まさり」					収穫	播種	定植							単価の最も高い時期をねらった長ねぎ栽培。

- 新規作型を導入した作期拡大を提案することで、作付面積の拡大(45a→60a)を可能にした。
- JAと連携して話し合いを進め、各作型に適した品種の選定及び作付計画を決定した。

活動内容 作期拡大支援②

○新規作型導入支援 ～適期播種・定植で確実なスタート～



播種



定植

2月 夏秋どり長ねぎ・曲がりねぎ(露地)
3月 曲がりねぎ(施設)

4月 夏秋どり長ねぎ・曲がりねぎ(露地)
5月 曲がりねぎ(施設)

活動内容 作期拡大支援③

○新規作型導入支援 ～病害虫防除の省力化～

新規作型を導入して栽培面積を拡大するにあたり、省力的な病害虫防除技術を提案し、試験を実施。



重要害虫：ネギアザミウマ
ネキリムシ

慣行	試験
アルバリン粒剤 ネキリエースK	ジュリボフロアブル
2剤	1剤
定植時に ほ場に手で散布	定植前に苗シャワー処理 (苗箱数が多い場合は動噴で 散布するとさらに省力的)



(ジュリボフロアブルのチラシより抜粋)



ジュリボフロアブルは慣行と同等の効果が認められ、作業時間は慣行の1/3程度で作業性に優れる。

➡ 作業がとても楽で良かったと高評価！

活動内容 作期拡大支援④

○新規作型導入支援 ～ 9月 夏秋どり長ねぎの出荷開始！～



作年度導入した「掘取機」で根を切る
→手でスポスポ抜ける

夏秋どり長ねぎ出荷調製

活動内容 作期拡大支援⑤

○新規作型導入支援

～ 10月 出荷時期に合わせてタイミング良く「やとい」を実施～



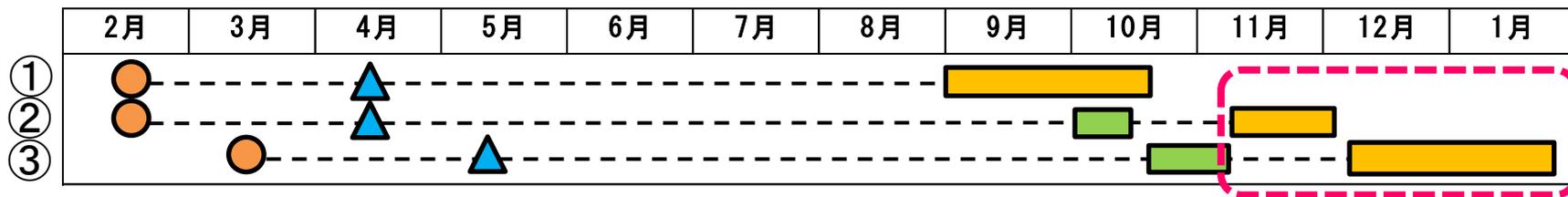
露地やとい



施設やとい

活動内容 作期拡大支援⑥

○新規作型導入支援 ～ 11月 曲がりねぎの出荷開始！～



役割分担を見直して
作業効率もアップ！



11月 曲がりねぎ(露地やとい)出荷開始

12月 曲がりねぎ(施設やとい)出荷開始

活動の成果 作期拡大支援

○出荷期間の拡大



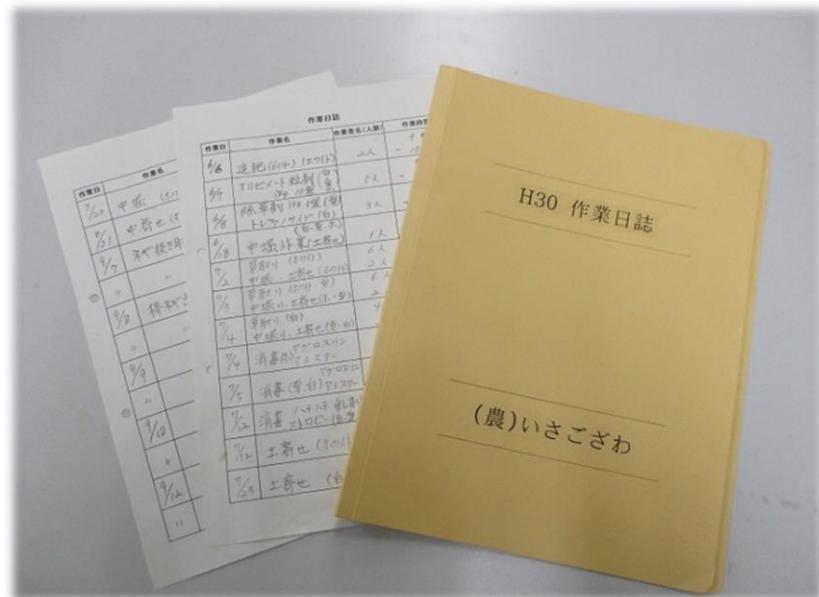
出荷期間 2ヶ月(H29)→5ヶ月(H30)に拡大

活動内容 作業計画の適正化

○作業計画策定支援

4月～12月

ねぎ栽培にかかるすべての作業について、作業日、作業内容、作業人数、作業時間を記録してもらい、内容を毎月一緒に確認することで、計画的な作業を実施できた。



1月 作の振り返り
来年度の作付計画の検討

労働時間を把握することで、作業スケジュールが立てやすくなり、来年度の作業計画につなげることができた。



活動の成果 作業計画の適正化

○3作型を組み合わせた栽培暦(労働時間含む)の作成

作型ごとにねぎの栽培体系に応じた労働時間を把握できた。

<(農)いさござわ 機械装備>

- ・播種版(JA無償貸出)
- ・ブームスプレーヤ(大豆用)
- ・簡易定植機(JA無償貸出)
- ・掘り取り機(購入)
- ・管理機(1/2補助で購入) ※皮むき機無し

表)作型ごとの10a当たり労働時間(時間)

	夏秋どり 長ねぎ	曲がりねぎ (露地やとい)	曲がりねぎ (施設やとい)
播種	10	11	8
堆肥・耕起	2	2	2
定植	11	12	14
中耕培土	8	12	5
施肥	3	3	1
除草	43	11	18
防除	4	3	2
やとい	0	55	76
出荷調製	321	305	330
合計	401	415	455

曲がりねぎを軸とした作型別栽培暦(抜粋)

		2月		3月		4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		計									
		上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下										
作型	夏秋どり長ねぎ	○	○	○	○	○	○	○																											
	曲がりねぎ(露地やとい)	○	○	○	○	○	○	○																											
	曲がりねぎ(施設やとい)				○	○	○	○	○																										
労働時間	夏秋どり長ねぎ	4	4	2	2	2	2	4	4	3	3	3	3	8	8	8	8	8	8	8	19	50	50	50	50			401							
	曲がりねぎ(露地やとい)	4	4	2	2	2	2	4	4	3	3	3	3	8	8	8	8	8	8	3	3	3	3	3	3	20	20	32	56	56	56	56	27		415
	曲がりねぎ(施設やとい)				4	4	2	2	4	4	2	2	2	3	3	3	3	8	8	3	3	3	3	3	3	3	30	30	10	30	56	56	56	56	56

夏秋どり長ねぎ・曲がりねぎ(露地やとい)・曲がりねぎ(施設やとい)
3つの作型を組み合わせた栽培暦(労働時間含む)を作成した。

まとめ

平成30年度目標

これまでの活動・成果

①計画的な作付を行うことで作期拡大し、ねぎの収益が向上する。

従来の施設やとい曲がりねぎに新たな作型(露地やとい曲がりねぎ, 夏秋どり長ねぎ)を組み合わせた作付体系を計画的に実施できた。これにより, 出荷期間を2ヶ月から5ヶ月に拡大でき, 販売額が向上(前年比156%)した。

②適切な作業管理ができるようになる。

作業を記録してもらい, 毎月一緒に確認することで, 計画的な作業を実施でき, 来年度の作業計画策定につなげることができた。また, 作業体系に応じた労働時間を把握でき, 3つの作型を組み合わせた栽培暦(労働時間含む)を作成した。

平成29年度

平成30年度

出荷期間

2ヶ月

5ヶ月

販売額

138万円

215万円

(農)いさござわのねぎ出荷期間は, 現状では5ヶ月が最大値である。今回, 出荷期間を最大限に伸ばすことができ, 「作期拡大」への意識は確実に高まった。波及効果をねらった他の生産組織まで含めると6ヶ月は達成の見込み。



支援対象をねぎ部会全体に広げ, 夏秋どり長ねぎや露地やとい曲がりねぎ等の作期拡大を部会員に普及し, 出荷量と販売額の増大を図る。また, 生産組織における新規掘り起こし等について, JAと連携してより一層積極的な活動を行う。

オーガニック

ほうれん草



ご清聴ありがとうございました。

平成30年度 第2回普及活動検討会資料

安定供給が可能なブルーベリー産地 及び新たな果樹産地の育成

活動期間：平成28年度から平成30年度まで

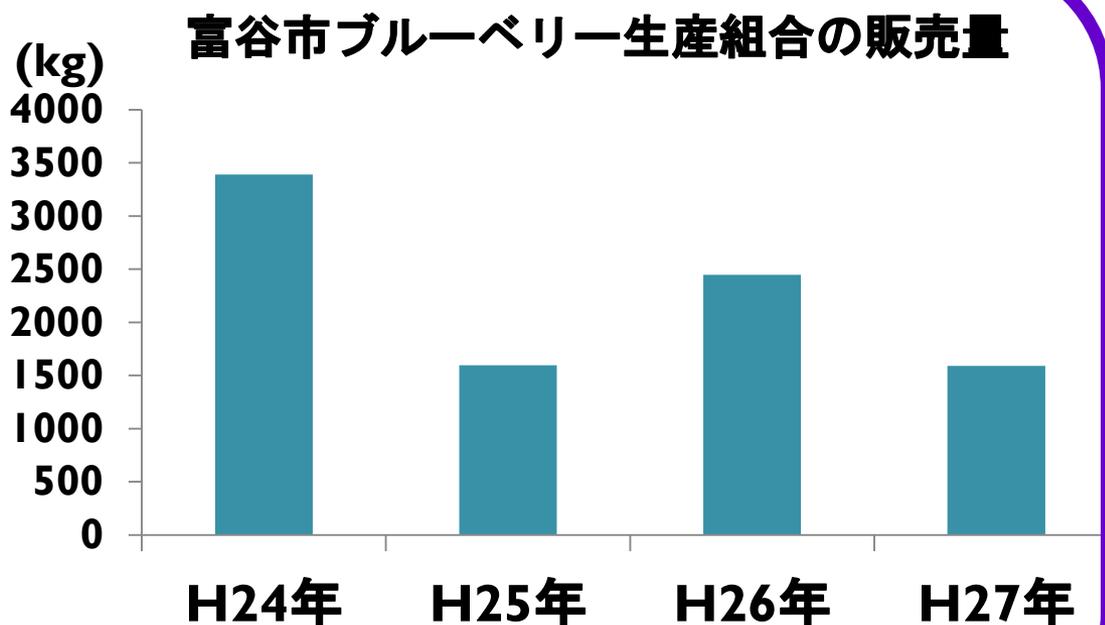


課題の背景

(ブルーベリー)

●販売量（出荷量）が安定していない。
⇒樹勢低下による生産性の低下。

●品種更新がほとんど行われておらず，販売期間が短い。



(ぶどう)

●平成28年4月にJAあさひなぶどう部会が設立したが，植栽して間もない生産者が多い。

⇒栽培技術が未熟であるため，技術支援の要望があった。

対象者と目標

(ブルーベリー)

対象：富谷市ブルーベリー生産組合員6名(組合員28名)

定性的目標

- ・適正な栽培管理により収量が向上する。
- ・優良品種の導入により販売期間が拡大する。

定量的数値目標：対象者の出荷量800kg

(ぶどう)

対象：JAあさひなぶどう部会員5名(部会員22名)

定性的目標

- ・適期管理を行うことで、販売可能な高品質の果房が生産される。

定量的数値目標：対象者の出荷量430kg

平成30年度の活動計画

(ブルーベリー)

(活動指標)

- 生産技術向上支援
- 優良品種導入支援

(具体的な活動)

- ・巡回指導
- ・マニュアルを活用した講習会の開催
- ・先進地視察研修会の開催支援
- ・かん水装置の運用支援

(ぶどう)

(活動指標)

- 生産技術向上支援

(具体的な活動)

- ・栽培講習会の開催
- ・重点作業時期の巡回指導
- ・先進地視察研修会の開催支援

ブルーベリー生産技術向上支援



富谷市ブルーベリー
栽培マニュアル



平成30年12月

編集：富谷市・富谷市ブルーベリー生産組合・
宮城県総合農業改良普及センター・あさひな農産協同組合

◎栽培マニュアルを活用した講習会や巡回指導により樹勢が回復し、支援対象者6名の出荷量が活動開始前よりも増加した。

(H27年) 250kg⇒ (H30年) 846kg ※目標:800kg

ブルーベリー有望品種導入支援



◎これまで、有望品種の栽培展示ほの設置と先進地視察の開催により、対象者のうち3名が導入。さらに、生産組合で増植した苗木を対象者2名が導入予定。

ぶどう生産技術向上支援



◎栽培講習会と巡回指導により，対象者の栽培技術の定着と適期作業の意識が高まった。また，支援対象者5名のうち4名が出荷を開始した。

(H27年出荷量) 0kg⇒(H30年出荷量) 412kg

※目標：430kg

生産組織への波及効果

◎富谷市ブルーベリー生産組合

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
部会員数	23	27	28	28
栽培面積(a)	400	460	460	470
出荷量(kg)	1567	2991	3129	3667

※個人の摘み取り園を含む直販分は含まれていない。

◎JAあさひなぶどう部会

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
部会員数	0	20	22	22
栽培面積(a)	45	59	88	91
出荷量(kg)	—	331	343	588

多様な担い手による園芸 を軸にした 中山間地域農業の実現

対象者 根白石地区生産
者4名

課題の背景

- 水稲，大豆，園芸等多様な農業が展開されている仙台西部の根白石地区
- 園芸栽培が盛り上がりを見せている
 - カラーミニトマトの栽培（JA仙台根白石支店女性部）
 - 土地利用型園芸品目の栽培（仙台西部水田園芸部会の設立）
- 園芸栽培に取り組む生産者への積極的な支援
 - ➡根白石地区の園芸振興の活性化
 - ➡根白石地区の他の生産者への波及を期待

成果指標（活動の目標）

- 定性的目標

園芸品目の栽培技術が身に付き、生産量・品質が向上する。

生産者自身が実施できる鳥獣対策の知識が身につく。

- 定量的数値目標

収量（ミニトマト）：30年度 2.4t/10a, 31年度 2.6t/10a,
32年度 3.2t/10a

活動の内容

- **品目ごとの生産拡大と栽培技術の向上支援**
 - ➡ **個別巡回による技術指導**
 - ➡ **栽培講習会，先進地視察研修会，出荷反省会による技術の定着と振り返り**

- **生産者ができる鳥獣対策への取り組み支援**
 - ➡ **個別巡回による被害実態の聞き取りと対策アドバイス**
 - ➡ **電気柵設置研修会，先進地視察研修会による技術・知識の向上**

活動内容①

- **定植時の栽培研修会（6月）**
ソバージュ栽培の基本技術の徹底したことで、最後まで収穫を終えることができた。
- **先進地視察研修（7月）**
収穫のタイミングや注意点を情報交換し、自身の収穫作業の参考となった。





活動内容②

- 定期的な巡回指導

収穫時期の追肥のタイミングや病害虫防除の技術情報を提供することで、意識づけができた。

- 実績検討会（12月）

栽培の反省点や良かった点を生産者で出し合うことで、来年作に向けた目標が共有できた。

活動内容③

- 定期的な巡回指導

対象者と相対しながら、その都度鳥獣の話をすることで知識の醸成に努めた。

- 電気柵設置研修会（7月）

イノシシの生態（習性）を学び、それに基づく設置の方法、注意点を学んでもらった。

- 先進地視察研修会（1月）

最新ワイヤーメッシュ柵の性能やその後のメンテナンス、集落での取り組み姿勢を改めて認識。



成果のポイント

- 定性的目標

✓ 園芸品目の栽培技術が身に付き、生産量・品質が向上 → 来年作へのさらなる意欲

✓ 生産者自身が実施できる鳥獣対策の知識が身につく → 継続的な知識醸成

「電気柵設置方法が学べて良かった」、 「地域で取り組む重要性が改めて確認できた」

- 定量的数値目標

✓ 収量（ミニトマト）：30年度 2.4t/10a, 31年度 2.6t/10a, 32年度 3.2t/10a

	出荷パック数(150g)	出荷量(kg)	栽培面積(a)	10aあたり収量	平均
対象者A	2231	340.7	1	3406.5	3.2t/10a
対象者B	1774	296.4	1	2964.0	

プロジェクト最終年の
目標収量は達成！



来年度以降もフォローアップしていきます！

- 今年の活動を見て、カラーミニトマトを栽培する生産者が増えます。
- 鳥獣対策を地域で取り組む意識が改めて活発化しています。
- 引き続き、中山間地域の農業振興、鳥獣被害対策に取り組みます。

N02 「省力化技術導入による大規模 土地利用型経営体の生産性向上」

活動期間：平成30年度から平成32年度まで

対象：みどりあーと山崎株式会社 5人



1 背景・ねらい

- 経営規模は水稲34ha＋大豆50ha。
- 農地中間管理事業の活用により農地集積が急速に進む大郷町山崎地域の担い手。
- 水稲では直播技術を早急に定着させて春作業の省力化を図るとともに、大豆では土壌診断に基づく適切な施肥行うことで単収を増加させることを目的とする。
- 平成29年度に経営継承を目的に役員の子息2名を正規従業員として採用していることから、会社経営に必要な経営ビジョンや経営計画等の樹立について支援していく。

2 活動内容 ①

◎直播雑草防除技術の定着支援

・雑草対策

湛水直播による省力化技術を経営に定着させるため、除草剤体系の展示ほを設け、使用タイミングと散布効果を現地研修会の開催で判断方法の理解を深めた。

・栽培体系

生育調査を定期的実施し、倒伏を軽減するために水管理や追肥の指導を行うとともに、刈取適期の判断支援を実施した。

・栽培暦

本年の反省点を踏まえた「みどりあーと直播栽培暦」を作成した。



2 活動内容 ②

◎土壌診断に基づく施肥体系の定着支援

・施肥改善

5年周期でのブロックローテーションの大豆栽培について、稲作跡大豆初年目と大豆2年目の土壌分析を行ない、土壌診断に基づいた施肥改善の誘導を行った。

・作業計画樹立支援

ミヤギシロメの蔓化を軽減し収量を向上させるため、栽植密度や播種量等の調査ほを設け、調査方法を指導することで、調査結果に基づく作業計画作成方法を指導した。



2 活動内容 ③

◎経営ビジョンの作成支援

- 経営ビジョン作成

会社設立時に作成した経営理念(社是)の明文化を誘導するとともに、経営理念に基づいた経営ビジョン及び行動規範、経営計画の作成支援を行った。

- 就業規則等作成支援

雇用を確保するための就業規則等の労働環境の整備を支援した。



3 活動の成果とポイント ①

◎直播雑草防除技術の定着支援

- 除草剤は展示ほを設けたことで、除草剤の種類と除草効果が的確に把握でき、雑草の発生は極めて少なかった。
- 倒伏軽減対策では、生育調査結果に応じた水管理や追肥、適期刈取時期の判断支援を行うことで適正な生育量を確保し、部分的にややなびいたものの倒伏はほとんどみられなかった。
- 収量は「ひとめぼれ」坪刈で432kg/10aと計画を上回る結果となったが、播種むら等の影響により全刈収量は計画目標とした単収390kg程度に留まった。
- 会社では、さらに安定した収量を確保するために、本年の直播で課題になった部分を整理し、自分たちの作業体系として「みどりあーと直播栽培暦」として作成し、来年以降に活用するに至った。

3 活動の成果とポイント ②

◎土壌診断に基づく施肥体系の定着支援

- 土壌分析により、水稻跡1年目はリン酸不足、2年目は石灰不足が明らかになったことで、水稻跡1年目大豆の一部についてリン酸成分の増量を行った。
- ミヤギシロメの栽植密度及び播種量を変えた調査区を設置し、会社が自らが定期的に生育調査を実施したことで、生育経過が把握でき、雑草、病害虫、防除時期、薬剤の選択等の知識の向上につながった。
- 全刈単収は190kgを確保し、平年の170kg、前年の140kgを大きく上回り、目標としている200kg/10aまであと一歩に迫った。

3 活動の成果とポイント ③

◎経営ビジョンの作成支援

- **経営理念**(社是)が明文化され、従業員も含めて会社が目指している方向の共有が図られた。
- **経営5年計画**が数値で示されたことで、会社の目標が鮮明になった。
- 就業規則等の**労働環境の整備**することで新たな従業員の確保に弾みができた。

平成31年度も継続課題として活動を展開します。

